

那須平成の森

自然体験プログラム ご利用要項



《 那須平成の森とは 》

大正 15 年から那須御用邸附屬地であった土地であり、国有財産として宮内庁により管理されてきました。多種多様な動植物が生息するこの場所を、平成天皇御在位 20 年を節目として開放されることとなりました。

栃木県立博物館の調査（平成 9 年～13 年）によると、動物 2,229 種・植物 908 種・地衣類 51 種・菌類 207 種が確認されており、薪炭林や放牧地として活用されてきた歴史があります。

現在はフィールドセンターを拠点として遊歩道や観察道が整備されており、自然体験活動の場に相応しいフィールドとなっています。



《 自然体験の意義 》

教育基本法第2条に教育の目的として、「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う」と明記されています。

技術革新や情報化社会に伴い、自然が身近なものから徐々に遠くなりつつあります。つまり、「自然が非日常的に」なっていると言えます。

私たちが目的としていることは、「自然を日常に」引き戻すことです。

ある自然体験がきっかけになり、身近な自然や環境に目を向けるようになることで、より大きな環境問題について考える芽が育まれます。そういう意味で、自然体験は言語と並び、学習の土台となるものではないかと私たちは考えます。

自然を学ぶ、自然から学ぶ、自然のために学ぶ、そういう体験が未来を担う子どもたちにこそ必要ではないかと思えます。



《 自然体験プログラムとは 》

人が持っている感覚（視覚、聴覚、触覚など）を使った体験を通して、那須平成の森で取り上げるテーマ（概念）を実感することのできる一連の活動、またその構成のことをいいます。

個々の体験をアクティビティともいい、テーマや参加対象に合わせてインタープリターが選択・組み立てを行います。プログラムやアクティビティの重要な要素である「ねらい」は、参加者に身に付けてほしい具体的な思考や行動を示すものであり、単なる「楽しい体験」で終わらせないためのものです。

プログラムは、“つかみ”“本体”“まとめ”の3部構成が基本になりますが、参加者がより主体的に、より深く学ぶことを意図して組み立てます。テーマをより明確にするためにも、参加者同士の気づきや発見を促し共有することを大切にしています。



《 アクティビティの紹介 》

葉っぱじゃんけん

出展：自然教育研究センター



ねらい

- ・葉をよく見たり比較したりすることで、樹種を分別する要素である“鋸歯”“葉柄”などの特徴に気づく。

内容

- ・拾った落ち葉を用いて、じゃんけんをする。
- ・一回毎に提示される「題目」について、条件に合ったものを選んで出した方が勝つ。

スライドショー

出展：公益財団法人キープ協会



ねらい

- ・自然物を光にかざして観察することで、今まで知らなかった事実や様子を発見する。

内容

- ・葉や自然物を採取してスライドに挟む。
- ・光にかざしながら観賞する。※直射日光は避ける
- ・お互いのスライドを見合ったり紹介したりする。

同じものさがし

出展：公益財団法人キープ協会



ねらい

- ・自然環境にあるものから同じものを探すことで、自然物に対する科学的な視点を持つ。

内容

- ・自然物（10種前後）を観察して覚える。
- ・同じものをフィールドから見つけ出し、それぞれの類似点や相違点を見つける。

めだまっちを探せ

出展：自然教育研究センター



ねらい

- ・木に目玉を付けることで、植物の立場に立った自然の見方や考え方を伝える。

内容

- ・各自、グループで決めた木に目玉を付ける。
- ・木の気持ちや言葉（メッセージ）を想像し、お互いに考えたり伝えたりする。

《 自然体験プログラム事例 》

プログラムのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・水の発生源である水源林について知り、水源涵養の仕組みを体験的に理解する。 ・水源林の機能や生態系について調べ、人や動植物が受けている恩恵を体験的に理解する。
-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2時間の展開)

過程	内容	ねらい
つかみ (感じる)	○水の音を聞いてみよう <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;">アクティビティ①</div>	普段、使わない感覚を意識することで、自然について多くのことに気付く。
本体 (見る)	○「見る」力を高めよう <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;">アクティビティ②</div>	自然界の生物の形態や生息場所は、それぞれに理由があることを理解する。
(調べる)	○水辺の環境を調べよう <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;">アクティビティ③</div>	上流域の環境を調べ、そこに適した生物が生息していることを理解する。
(考える)	○水源の様子を想像し確かめよう ○森の機能を考えよう	水が生まれる場所を実際に見ることで、その仕組みを実感する 実際に水を流す実験をして、水源涵養や災害防止の機能を理解する。
まとめ (伝える) (共有する)	○今日の学習をふりかえろう <div style="border: 1px dashed gray; padding: 5px; margin-top: 5px;">アクティビティ④</div>	体験して思ったことを文字や俳句、詩や絵などに表し紹介する。

(考えられるアクティビティ)

過程	アクティビティ名
つかみ	五感体操、音いくつ、森の擬音まつり
本体	立体カモフラージュ、森の宝物さがし
まとめ	森の句会、森の設計図、俳画風味、一枚の思い出写真

《 自然体験活動の学習指導要領での位置づけ 》

(各教科)

学年	教科	項目	学習内容
小5～6	国語	B(2)(ア)	経験したこと、想像したことなどを基に詩や短歌、俳句をつくる
小5	社会	(1)エ	森林資源の働き及び自然災害の防止(森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力、環境保全のための国民一人一人の協力の必要性)
小3	理科	B(2)	生物とその周辺の環境との関係
小4	理科	B(2)	季節ごとの動物の活動や植物の成長
小5	理科	B(1)	植物の発芽、成長及び結実とその条件
小4～6	理科	B(2)(3)(4)	植物の体のつくりと働き、生物と環境とのかかわり、土地のつくりと変化
小1～2	生活	(5)(6)	自然の不思議さやおもしろさに気付く
小3～6	音楽	A(3)ア	いろいろな音の響きやその組合せ、様々な発想をもって即興的に表現する
小1～6	図画 工作	共通事項(1)イ	形や色などを基に、自分のイメージをもつこと
小5～6	家庭	D(2)ア	自分の生活と身近な環境とのかかわり
小5～6	体育	内容の取扱い	自然とのかかわりの深い雪遊びなどを積極的に行う

(道徳)

項目	学年	学習内容
主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること	小1～2	美しいものに触れ、すがすがしい心をもつ
	小3～4	自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする
	小5～6	自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする

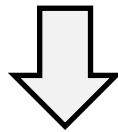
(総合的な学習の時間)

課題	視点	学習内容(例)
環境	循環	薪炭林、ウッドチップ
	多様性	アンブレラ種(ツキノワグマ、猛禽類など)
	生態系	ギャップ、遷移、樹洞、朽木
	共生	キーストーン種(キツツキなど)
	保全	アニマルパスウェイ(ヤマネ)

《 プログラム実施前から実施後までの流れ 》

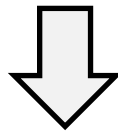
（事前）

- 期日、時間、行程の確認
- 参加者の実態把握
（年齢、人数、男女比、普段の学習や生活の様子、支援を要する人の有無など）
- プログラムの提案
（目的、ねらい、内容、配慮すべき事項など）



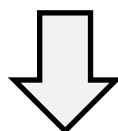
（二週間前まで）

- 日程、プログラム内容の最終確認
- 参加者の最終確認（グループ分け等）
- 荒天時、事故発生時の対応などの確認



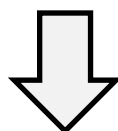
（当日）

- 受付（参加者の状況把握、当日の日程確認、清算等）
- ◎ プログラムの実施



（事後）

- 評価会の実施
（テーマやねらいの達成について、参加者の様子、スタッフの対応など）
- 団体からのアンケート集約



（次回に向けて）

- 課題や改善案の提起
（団体が求めるものや参加者の実態に合った、よりよいプログラムの構築）

《 那須平成の森フィールドセンターとは 》

那須平成の森フィールドセンターは、インタープリターが常駐してプログラムを毎日実施している日本で唯一の施設です。（12月～3月は水曜日が休館）

通常、インタープリターとは「翻訳・通訳する人」のことをいいますが、私たちは自然とのふれあいを通してメッセージを伝える取り組みをしています。

ただ観賞して楽しむだけでなく、五感を使って感じ取ることから身近な自然や環境について参加者自身が気づくことを重視しています。

その時々 of 自然の様子や変化に応じて、楽しく学ぶことのできるプログラムを提供するのが私たちインタープリターの役割です。



《 自然体験プログラムについてのお問合せ 》

那須平成の森フィールドセンター

〒325-0302 栃木県那須郡那須町高久丙3254

TEL 0287-74-6808 FAX 0287-74-6809

HP <http://www.nasuheiseinomori.go.jp>

E-mail info@nasuheiseinomori.go.jp

開館時間 (4月～11月) 9:00～17:00
(12月～3月) 9:30～16:30

休館日 毎週水曜日 ※祝日の場合は翌日
(5月、8月、10月は無休)